

現地報告「友の会と協力して地域訪問活動」

東京民医連より支援中の齋藤裕幸次長より報告です

4月3日より「友の会だより」の手配り担当者が被災した地域に入り、「友の会だより」の配布と安否確認をしています。被災の大きい地域では、家屋の倒壊、床上浸水の被害が深刻です。「1階が柱だけになった家屋の2階で、高齢の女性が一人で暮らしているが、窓ガラスが割れたままになっている」「畳を外した家屋の縁側で、老夫婦が汚れてしまった古い写真を眺めていた。片付けはどこから手を付けていいかわからない」となどの報告を受けています。行方不明になった会員さんもいらして、近所の方から「流されるのを見た」と聞き取ったケースもあります。今日からは坂病院の新入職員と一緒に地域を回ります。

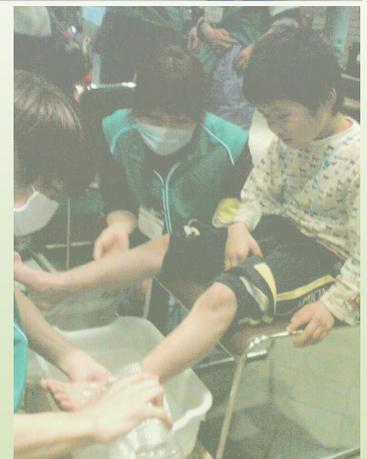
班会の開催も連続的に計画され、昨日は震災後初めて開催された班会に宮崎県連から支援の看護師に参加していただきました。「今日は宮崎から持参した血圧計で測ります」ではじまり、とても盛り上がったようです。なにをなすべきか、まだまだ手探りです。また報告します。

心をほぐす診察室 (西都保健生協・保坂Drの被災地支援日記から)

今日(4/3)は朝から4時まで、避難所になっている多賀城文化センターで血圧測定をしながらゆっくりと話を聞いてきました。それなりにココロを作っている方はいいのですが、孤立している方もいて、この先が心配。配給食がまた少なくなってきたようで、おにぎり、お粥、野菜が食べたいという方ばかりでした。中には妊娠7か月の方も…。足湯の手伝いもしました。

午後6時から日中家の片付けに戻っている方を対象にした夜間診察です。子どもたちも足湯をし、サッカーして汚れた足洗って無邪気にしていました。でも家は流され、戻る場所は今はない…。

4/4朝4時半。昨日も寒かったけれど今朝はさらに冷え込みました。文化センターの避難所はそれなりに大きな建物で大ホールのまわりに楽屋やら練習室、リハーサル室がいくつもあります。そういう部屋にいる方は半地下で窓がなく、空気がよどんで咳が続く状態。ホールのロビー広間にいるとお日様は何となく当たるけれど、たくさん人がいて音が気になり眠れない。ホールわきの階段や通路は寒さがきびしく空気もよどんでいます。そういうところにいる贅沢は言えないからと皆さん我慢強くおられました。「先生ありがとね。疲れたでしょ」「じゃあ遠慮なく」。グリーンケアを兼ね、私も足をもんでもらいました。地域の繋がりが強いところで、それが互いの支えになっているようです。



(西都保健生協：明るいまちづくりニュースより)